

熊本日日新聞 読者の広場 若者コーナー

令和2年11月28日掲載

3年1組 田中 怜羅

「私たちが考えていかなければならないこと」

11月上旬、私たち3年生は、人権学習の一環として恵楓園絵画クラブ金陽会「里帰り展」の見学に行きました。学年の人権学習のテーマは、「思いを知り、考え、行動することができる人を目指す」です。私は、2年生のときに学んだハンセン病差別をより身近に知ることができるとの思いを胸に見学に臨みました。

会場に入ってすぐ目に飛び込んできた色鮮やかな絵画の数々と繊細な描写に圧倒され、私は思わず「凄い」と一言漏らしていました。しかし解説を聞きながら、よくよく絵を見てみると、明るい描写の中に一部暗いところがあり、心の表と裏が表現されているような気がしてなりませんでした。ハンセン病について学んだ今だから分かる、差別や偏見に対する苦しみが、まざまざと伝わる作品ばかりでした。帰りのバスで、何とも言えない気持ちになったのは、私だけではなかったように思います。

私は今、普通に暮らしています。ただこの「普通」という二文字には、多くの人が様々なものと戦っている上に成り立っていることを、忘れてはいけません。ハンセン病もその一つです。この世の中の状況だからこそ、自分を見つめ直し、正しい知識を持って差別や偏見と闘う心を持つべきなのではないかと思います。「当たり前にある生活は、決して当たり前ではない。」そう思いながら、今、普通の生活を送ることができていることに感謝し、これからの時間を大切にしていきたいです。